

令和7年度ウェルビーイング調査結果の分析

宇都宮大学地域デザイン科学部教授 中村祐司

<00 カテゴリー別>

主観と客観との差が20ポイント以上の因子に注目して、主観よりも客観が高い場合とその逆とに分けて見ていこう。

主観>客観の因子には、自然の恵み（主観 71.6、客観 50.2）、地域とのつながり（主観 80.0、客観 53.6）、健康状態（主観 80.0、客観 36.8）がある。

このうち健康状態の両因子が最も乖離しており、40ポイント以上の差がある。

主観<客観の因子には、遊び娯楽（主観 20.0、客観 42.9）、初等・中等教育（主観 20.0、客観 41.1）、雇用・所得（主観 30.9、客観 55.2）である。

このうち雇用・所得の両因子が最も乖離しており、ほぼ25ポイントの差がある。

なお、両因子にほとんど差がないのが、移動・交通（主観 26.6、客観 27.6）である。

<01_主観データ>

三つのカテゴリー別に数値（偏差値）の高い（良い状態である）上位三つのキーワードを挙げるなら、「自分らしい生き方」では身体的健康、精神的に健康、将来のため良い文化等を残し…、である。「地域の人間関係」では同じ町内の人を信頼、相談できる人が身近、町内の人を手助け、となる、「生活環境」では、自宅に心地の居場所、身近に自然を感じる、リサイクル等環境への取組良、である。

<02_客観データ>

同様に上位3~4のキーワードを挙げる。「地域の人間関係」では、拡大家族世帯割合、居住期間が20年以上の人口、自治体における管理職の女性、が相当する。「自分らしい生き方」となると、首長選挙の投票率、市区町村議会選挙の投票率、人口あたり生涯学習講座受講…、高齢者有業率、が該当する。「生活環境」では、特定検診実施率、人口あたり子ども食堂数、人口あたり体育施設利用者数、人口あたり再生可能エネルギー…、が挙げられる。

<03_幸福度・生活満足度>

ここでいえるのは、芳賀町における主観レベルの場合、「5年後の幸福度」「幸福度」「周りも楽しい」では全国平均値を上回っている一方、「生活満足度」「町内の幸福度」では下回っているという結果である。

<04-1_相関係数・幸福度>

「幸福と KPI との相関係数」では、自宅に心地のいい居場所、精神的に健康、身体的に健康、自分のこと好ましく、が相対的には相関が強いものの、いずれも 0.4 未満であることから全体の傾向と同じく相関が弱いと位置づけられる。

<04-2_相関係数・生活満足度>

「生活満足度と KPI との相関係数」では、雰囲気自分にとって心地よい、同じ町内の人を信頼、町内に対して愛着、町内どんな人の意見も受入、がいずれも相関が強いという結果が出た。

「生活満足度と因子との相関係数」では、地域行政、公共空間、地域とのつながり、がいずれも相関が強いとされた。

「生活満足度と他の総合指標との相関係数」においては、いずれも相関が強いとされた（幸福度、5年後の幸福度、町内の幸福度、周りも楽しい）。この中でとくに町内の幸福度の相関係数は 0.75 となり、相関が非常に強い結果となった（下線中村）。

<04-3_5年後の幸福度>

「5年後の幸福度と KPI との相関係数」では、相関が強いとされたキーワードはなかったが、自宅に心地のいい居場所、精神的に健康、身体的に健康、が上位に挙がった。

「5年後の幸福度と因子との相関係数」では、健康状態のみ相関が強く、これに住宅環境と自己効力感が続いた。

「5年後の幸福度と他の総合指標との相関係数」においては、周りも楽しい以外はいずれも相関が強いとされた（幸福度、生活満足度、町内の幸福度）。とくに、幸福度は相関係数が 0.82 で相関が非常に強い結果となった（下線中村）。

<04-4_町内の幸福度>

「町内の幸福度と KPI との相関係数」では、子どもがいきいきと暮らせる、雰囲気自分にとって心地よい、同じ町内の人を信頼、コミュニティ活動盛ん、町内に対して愛着、の四つのキーワードと相関が強いとされた。

「町内の幸福度と因子との相関係数」においては、子育て、公共空間、地域とのつながり、多様性と寛容性の四つについて、相関が強い結果となった。

「町内の幸福度と他の総合指標との相関係数」においては、幸福度、生活満足度、5年後の幸福度、周りも楽しい、のいずれも強い相関係数となったが、とくに生活満足度について、相関が非常に強いとされた。

<04-5_周りも楽しいと他の総合指標との相関係数>

「周りも楽しいと KPI との相関係数」では、子どもがいきいきと暮らせると、雰囲気自分にとって心地よいについて、相関が強い結果となり、「「周りも楽しいと因子との相関係数」においては、公共空間と地域とのつながりの二つについて相関が強いとされた。

「周りも楽しいと他の総合指標との相関係数」では、幸福度と 5 年後の幸福度については相関が弱く、生活満足度と町内の幸福度については相関が強くなった（下線中村）。

<05_主観・客観散布図>

ここで注目したいのは、主観と客観の両方の数値が 50 以上に位置するキーワードである。施策の重点施策としての対象とすることで、目的の達成につながる蓋然性が高いと考えられるからである。

こうした考えに立つと、

- ・ 地域とのつながり
- ・ 環境共生
- ・ 自然の恵み
- ・ 自然災害、
- ・ 住宅環境
- ・ 自己効力感

の六つについては、あくまでも相対的にはあるが主観と客観の乖離が少ないという類型に入る。主観と客観のバランスが取れている意味において、芳賀町が追及すべき施策のモデル的な位置づけとしても捉えられるのではないだろうか。

●満足度調査結果とウェルビーイング調査のリンク

芳賀町の町民満足度調査で明らかになったところの縦軸の重要度と横軸の満足度の図と主観・客観散布図との関係性について考えてみよう。

満足度、重要度、主観、客観において相互の親和性が近いのは、満足度と主観、重要度と客観ではないだろうか。

また、満足度調査の各施策（青色）とウェルビーイング調査のカテゴリー（赤色）との間で親和性・共通性のあるものを結びつけるとどうなるのであろうか。

表1：施策（満足度調査）とカテゴリー（ウェルビーイング）との共通性

都市計画の推進	移動・交通、都市 景観	空家の利活用の推 進	住宅環境
市街地整備の推進	住宅環境、都市景 観	下水道の整備	住宅環境
安全で利便性の高 い道路網の整備	移動・交通	適正な道路の管理	移動・交通
適正な地籍情報の 作成	住宅環境	児童福祉の充実	医療・福祉
児童保育の充実	子育て	学校教育の充実	初等・中等教育
教育環境の充実	初等・中等教育、 教育機会の豊かさ	生涯学習の充実⑬	自己効力感、教育 機会の豊かさ
生涯学習の充実⑭	自己効力感	文化活動の充実	自己効力感、文 化・芸術
総合情報館の充実	デジタル生活	高齢者福祉の充実	医療・福祉
介護保険制度の適 正な運用	医療・福祉	地域包括支援セン ター機能の強化	医療・福祉
地域福祉の充実	医療・福祉	障がい福祉の充実	医療・福祉
国保・年金制度の 維持	医療・福祉	シティプロモーシ ョンの推進	遊び・娯楽
農業の振興	事業創造	生涯スポーツの充 実	自己効力感
安全な生活環境の 確保	住宅環境、公共空 間	町有施設の適正な 管理	地域行政
多面的機能支払交 付金事業の推進	環境共生	消防・防災機能の 充実	自然災害
交通安全の推進	事故・犯罪	防犯対策の推進	事故・犯罪
地域コミュニティ の充実	住宅環境、地域行 政、地域とのつな がり、自己効力感	公共交通の充実	移動・交通
広報の充実	デジタル生活、地 域行政	広聴の充実	地域行政

カテゴリーにある「買物・飲食」「自然景観」「自然の恵み」「多様性と寛容性」「健康状態」「雇用所得」については施策に該当するものは見つからなかった。

施策の中に、こぼれ落ちた上記カテゴリーと合致するようなものを盛り込むことが検討

されてもいいのではないか。ただし、今回の分析ではできなかったものの、各施策の説明書きと各カテゴリーの説明書きの内容の照合に焦点を当てれば、両者の親和性・共通性が明確に浮かび上がってくるかもしれず、今後の分析課題としたい。